

川の子ども新聞



「水のみち探検隊」発見!

利根川の水はこう使われている

川の水って、いったい、どのように使われているんだろう? そのゆえをたずねて、「利根大堰」と「東毛工業用水道事務所」を探検したぞー!



「水のみち探検隊」の子ども記者
前列右から
高橋 優太くん (藤岡市立小野小1年)
近藤 晴乃さん (前橋市立芳賀小1年)
林 拓海くん (前橋市立細井小5年)
大島 咲季さん (伊勢崎市立宮郷小6年)
本間 有希さん (前橋市立桃井小5年)
阿部 真弓さん (館林市立第一小3年)

利根大堰

川をせきとめて水を送る

「あれー?」と「行くの?」と前橋を出発して、バスは南東の方角へ。そつ、いつものダム探検と逆の方向だね。

こんなかいの行き先はダムじゃないんだ。じつは、ダムにためられた水が、どのように使われるのか、それを探検しようというわけなんだ。

探検隊が向かった利根川の下流。その目の前にあらわれたのは、長い橋...のよつだけど、



長い利根大堰。およそ500もあるんだ

なんか塔みたいなのがいくつもくっついてるね。

「ここが、千代田町の利根大堰。」

「とねおおせきって、なにかかな?」

「ふつうの橋じゃないみたい」

そんな記者たちをやさしく出迎えてくれたのは、利根導水総合管理所の吉窪晃さん。

最初にあんないされたのは野外劇場...のようなひろば。正面の大きなパネルを見ながら、ナレーションで利根大堰のあらましを聞いた。

ふむふむ。なるほど。利根大堰というのは、利根川の水をせきとめて、水路に水を送るためのものなんだ。そして、その水は田んぼや畑、工場や家庭などにはこぼれる、というわけだね。

「とねおおせきって、なにかかな?」

「ふつうの橋じゃないみたい」

そんな記者たちをやさしく出迎えてくれたのは、利根導水総合管理所の吉窪晃さん。



パネルの絵とナレーション(声)で利根大堰の勉強

トをあけたりしめたりするための機械が入った部屋だつたんだ。

目の前をサケがおよく

「いまの時期(10月~12月)は、ちょうどサケがのぼっているところだ」と吉窪さん。

えーっ! 「サケ」って、あのさかなのサケ? ...でも、せきとめられた川を、どうやってのぼるの?

「これは、ゲートがしまっていて、さかなたちが川をとおれるようにつくられた道なんだって。」

さらに魚道の水の中をよつすを見ることもできる。大堰自然の観察室へあんないしてもらった。

「おおーっ! ほんとにサケだ。およいでる!」

「この利根大堰の魚道をさかのぼるサケ。きよねん1年間で、なんと1500尾もかくにんされた、ということだよ。」

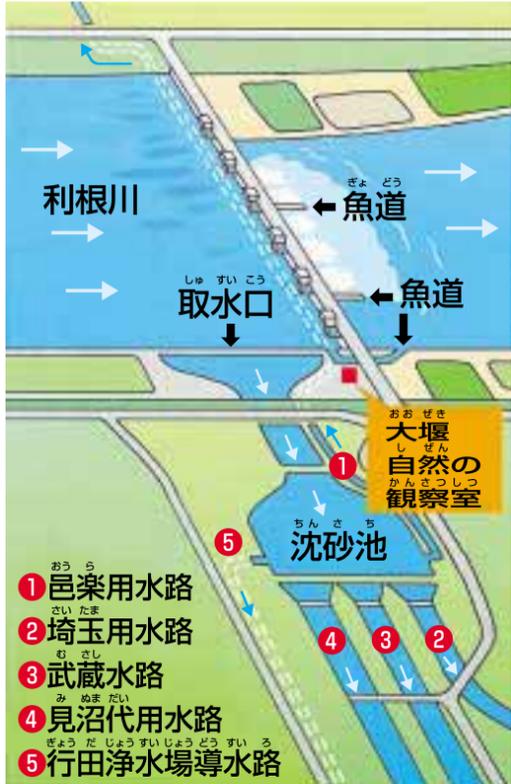
「首都圏800万人の飲み水」

次に、管理所の中の操作室をくぐって見学。利根大堰について、吉窪さんがわかりやすく説明してくれた図を見ながら読んでね。

利根川の水は利根大堰のゲートでせきとめられ、取水口から取り入れられ、沈砂池できれいにされる。その水が5本の水路に分かれ、水路によって埼玉県、



魚道には大きなカニがやってくることもある



- 1 邑楽用水路
- 2 埼玉用水路
- 3 武蔵用水路
- 4 見沼代用水路
- 5 行田浄水場導水路

「あつ、いたいた!」...魚道をのぼるサケのすがたに、みんなコーン



「あつ、いたいた!」...魚道をのぼるサケのすがたに、みんなコーン

「あつ、いたいた!」...魚道をのぼるサケのすがたに、みんなコーン

「あつ、いたいた!」...魚道をのぼるサケのすがたに、みんなコーン



吉窪さん(右)のあんないで、大堰を24時間監視する操作室へ